

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	児童劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	きぎょうくみあい げきだんなかま 企業組合 劇団仲間	団体ウェブサイトURL http://www.gekidan-nakama.com/	
代表者職・氏名	代表理事 小田美江		
制作団体所在地	〒 164-0012 最寄り駅(バス停) 新中野	新中野	
	東京都中野区本町4-26-5 Sビル202		
電話番号	03-4405-2453		
ふりがな 公演団体名	きぎょうくみあい げきだんなかま 企業組合 劇団仲間	団体ウェブサイトURL http://www.gekidan-nakama.com/	
代表者職・氏名	代表理事 小田美江		
公演団体所在地	〒 164-0012 最寄り駅(バス停) 新中野	新中野	
	東京都中野区本町4-26-5 Sビル202		
制作団体 設立年月	1953年 4月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	代表理事 小田美江 専務理事 村井裕 理事 飛田晃治 三橋怜子 監査 池田舞 大和田遥奈	▽演技部劇団員 30名▽演出部劇団員 1名 ▽制作部劇団員 2名▽事務局員 1名 準劇団員は1年制以上の俳優養成機関の修了者を準劇団員として採用。演出部は1年間の研修期間を経て劇団員として採用。	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	大堀茜
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	三橋怜子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	gekidan.nakama@gol.com		

<p>制作団体沿革</p>	<p>昭和28年4月、俳優座養成所(2期生)卒業生が講師の中村俊一を中心にして劇団仲間を結成。昭和44年に企業組合として法人化。新劇公演、児童青少年演劇公演を全国に展開し今日に至る。平成6年度(第49回)芸術祭賞を「モモと時間どろぼう」で受賞。平成13年度東京都優秀児童演劇選定優秀賞、平成17年度児童福祉文化賞推薦作品を「カモメに飛ぶことを教えた猫」公演で受賞。平成19年度厚生省中央児童福祉審議会児童福祉文化財を「飛ぶ教室」で受賞。平成22年度児童福祉文化賞推薦作品を「森は生きている」公演で受賞。平成26年度厚生労働省社会保障審議会推薦児童福祉文化財認定「空の村号」</p>			
<p>学校等における公演実績</p>	<p>平成28年8月 「小さい“つ”が消えた日」夏休み児童・青少年演劇フェスティバル参加 平成29年5月 「小さい“つ”が消えた日」葛飾区立梅田小学校、千代田区立富士見小学校、練馬区立石神井西小学校、墨田区立隅田小学校、川崎市立大谷戸小学校 平成29年6月 所沢市立上新井小学校、桐朋学園小学校、横浜市立中沢小学校、墨田区立外手小学校、墨田区立第三寺島小学校他、年度内「小さい“つ”が消えた日」小学校体育館公演35回 平成30年5月 「小さい“つ”が消えた日」墨田区立東吾嬬小学校 「給食番長」昭島市立拝島第二小学校 平成30年6月 「小さい“つ”が消えた日」小平第四小学校 他年度内「小さい“つ”が消えた日」小学校体育館公演13回 「給食番長」小学校体育館公演18回 令和元年「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成総合事業15回 他年度内「小さい“つ”が消えた日」小学校体育館公演5回 「給食番長」小学校体育館公演21回 令和2年「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成総合事業16回 「給食番長」小学校体育館公演8回 令和3年「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成総合事業11回子供のための文化芸術鑑賞・体験事業 8回 「わすれものの森」夏休み児童・青少年演劇フェスティバル参加2回 令和4年「小さい“つ”が消えた日」文化芸術による子供育成推進事業19回 他年度内東日本国際大学附属昌平中学校高等学校1回 「給食番長」小学校体育館公演12回 「ガクモンの神様」小学校体育館公演4回 「わすれものの森」夏休み児童・青少年演劇フェスティバル参加1回、キッズ・サーキットin佐久参加1回 令和5年「わすれものの森」夏休み児童・青少年演劇フェスティバル参加1回 令和6年1月「わすれものの森」桐蔭学園小学校にて公演予定</p>			
<p>特別支援学校等における公演実績</p>	<p>長崎県立虹の原特別支援学校(平成23年11月・平成25年10月)にて「カモメに飛ぶことを教えた猫」次代を担う子どもの文化芸術体験事業実施。 この公演は担当先生との打ち合わせで通常通りの公演を行いました。</p>			
<p>参考資料の有無</p>	<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>		
	<p>※公開資料有の場合URL</p>	<p>https://youtu.be/uTzM9Ec1oTU</p>		
	<p>※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード</p>	<p>ID:</p>		
		<p>PW:</p>		

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 企業組合 劇団仲間 】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	舞台劇 わすれものの森			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>「わすれものの森」 原作:岡田 淳+浦川 良治(BL出版刊) 脚色・演出:松田 環 音楽:芳賀 一之 振付:川又 真理子</p> <p style="text-align: right;">公演時間 75 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況	
演目概要	<p>絶対に見つけ出さずんだ 忘れてしまった大切なものを…</p> <p>小学三年生のツムは、たて笛をなくしてしまった。 明日の音楽会でつかう大切な笛だ。 どこを探しても見つからない。 ツムは、笛を探しに夜の学校にしのびこんだ。 そこに現れたのは、黒い帽子とマントを身につけた、不思議な二人組のサントスとニブラ。 わすれものを集めて「わすれものの森」へ持っていくことが彼らの仕事だという。 ツムは笛を取り戻すため、森へ連れて行ってくれるよう頼むのだが…。</p>			
演目選択理由	<p>学校のシーンから始まるこの舞台は、子どもたちにとっては馴染みやすい物語です。 また、人々の関係性の中で生れる様々な「愛」をテーマに、スピーディーなストーリー展開で定評がある、松田環の脚色・演出により、現代の子どもたちの感覚に近い演劇表現が散りばめられています。 学校公演だからこそ、この作品の楽しさやメッセージが広がるのではと考え、選定いたしました。 笑いあり、涙あり、心をたくさん動かす体験になることを願っています。</p> <p>※別添 『わすれものの森』現役教員の感想</p>			
児童・生徒の共演、 参加又は体験の形態	<p>学校とは密な連絡を取り、より良い児童・生徒の共演、参加の形態がとれるよう努めます。ワークショップ参加の子ども達はわすれものの森の住人となって舞台に参加します。 公演後バックステージツアーを行い、実際に舞台の上にもたつて演技する側の気分を味わってもらいつつ児童・生徒との交流をします。 舞台参加については照明や音響も交えて舞台稽古を行い、本番中の安全を確認します。 公演終了後はキャストが退場口に行き、子ども達との交流をはかります。</p>			
出演者	<p>二瓶美江、前田承生、更井孝行※、鎌田睦大※、小倉輝一、大堀茜、内堀創、大和田遥奈 ※更井孝行、鎌田睦大はダブルキャストで、スケジュールによりどちらかが出演いたします。</p>			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 7 名 スタッフ: 8 名 合計: 15 名	運搬	積載量: 2 t または 4 t 車長: 6 m 9 m 台数: 1 台	

本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込み	有	前日仕込み所要時間		4	時間程度
	到着	仕込み	上演	内休憩	撤去	退出
	8時	8時～12時	13時30分～14時45分	0分	14時45分～16時45分	17時

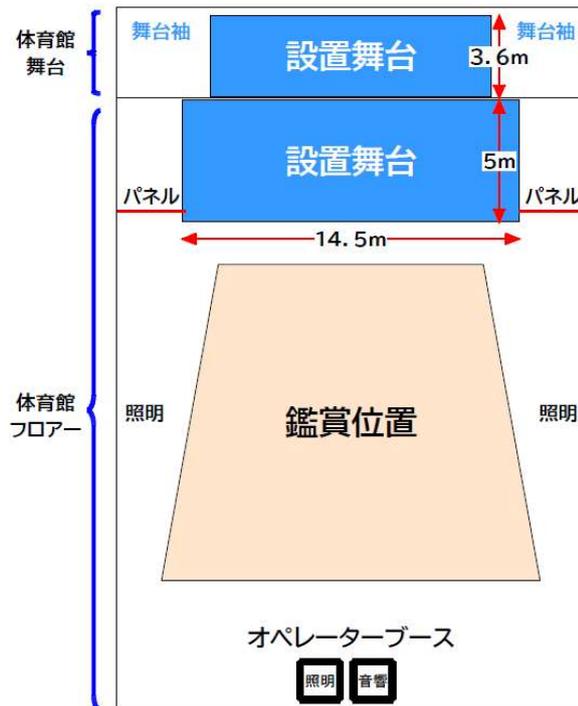
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	10日	5日	19日	16日	
	11月	12月	1月			
	5日	0日	5日	計	80日	

※平日の実施可能日数目安をご記載ください。

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	30名(ワークショップのみの参加は応相談)
		鑑賞人数目安	500名

舞台設置図



公演に係るビジュアル
イメージ
(舞台の規模や演出が
わかる写真)

※採択決定後、図
面等の提出をお願い
します。

舞台写真



【公演団体名 企業組合 劇団仲間 】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	100名(1学年程度)
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>1, 準備運動として簡単なゲームをします。 例) アイコンタクトを用いたゲーム (輪になって決められたお題を目を見て隣に伝えていきます。慣れてきたら同時に2方向に回します)</p> <p>相手との信頼関係を育むゲーム (2人組になり手のひらを触れない程度に合わせて片方の人が相手を誘導し、誘導される側は、相手に動きを委ねます。誘導する側はまわりとぶつからないようにします。慣れてきたら手と顔で同じことをします)</p> <p>チームプレイが大切なゲーム (2人組になり向かい合って縦方向と横方向で手をぶつけないように手拍子を打ちます。さらに参加者全員で音が重なるように、耳元に集中し、思いを一つにします)</p> <p>想像することを楽しむゲーム (与えられたお題を瞬間的に判断して体を動かします)etc</p> <p>2, 劇中の参加シーンの練習をします。 ※劇中の参加人数については制限させていただく場合があります。</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>演劇要素を取り入れたゲームを通じて、遊ぶことで声を出すことやコミュニケーションをとることの大切さを感じてもらいます。 目を見て思いを相手に伝え、受け止めることで協調性を養います。 ゲームをしながら身体を動かすことで想像力を刺激し、また、心身の解放を目指します。 以上のゲームで体験したことは劇作りにも大切な要素です。 参加シーンの練習ではゲームで感じたことを踏まえ、段取りの練習だけでなく、森の住人になる体験をします。場面の情景を想像したり、登場人物の心の動きを、子ども達の自由な発想と自主性を尊重しながら一緒に考えてシーンを創ります。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<p>特別支援学校での実施について学校と綿密な連絡を取り、通常通りのワークショップ、公演をいたします。必要であれば台本を提供し、舞台上の進行を追えるように対応いたします。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名 企業組合 劇団仲間】

<p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p>①本事業に対する取り組み姿勢 誰もが体験したことがあるような日常から、ファンタジーの世界につながる物語を通して、子どもたちの冒険心や想像力を育みます。 友達との出会いと交流、自分とは違う考えかたを受け入れる姿勢、相手の気持ちを考えること、忘れかけていた人や物への愛着の気持ちが、この物語には含まれています。 物語を通して子どもたちが、何気ない日々に隠れた小さな幸せ、ワクワク、ドキドキを見つけるきっかけになることを願い、創作に努めました。 ひとりひとりが自分の生活について見つめなおし、楽しみを探しだすはじまりになるよう、この事業に取り組みます。 そして、舞台への参加も「体験」のみに留まらず、一つの作品をみんなで作り上げるという達成感を得ることで、自分の可能性の広がりを発見する機会としていきます。 ワークショップでは、演劇を通じて子ども達の「自己表現とコミュニケーションの場所」を作り、「伝える力」「受け入れる力」の向上を目指します。 子ども達の自主性や発想は最大限尊重し、人と違うことをおそれる事の無いよう、自分の個性を發揮できる時間にします。 人と協力していくことでさらに力を出すことができるという喜びや、誰かと繋がることの大切さを体験してもらいたいと思っています。 演劇は総合芸術であり、たくさんの方が集まって一つのものを作っています。私たちがそれぞれが得意なことを持ち寄り、作品を作っていきます。 普段なかなか自分の気持ちを表現出来ない子でも、得意なことを生かして演劇を成功させるためのひとりになることが出来ます。 そのために演技だけではなく歌や踊り、衣裳や小道具を工夫することで自分なりの表現があるということを実感してもらいます。 私たちは、次代を担う子どもたちが「生の舞台芸術」にふれることの大切さ、おもしろさを理解してもらいたいと考えています。 そのためにも、照明、音響、舞台装置など、ホール公演と遜色のない舞台作りを目指しています。</p> <p>また、普段、公演実現が難しい地方の学校に質の高い舞台作品を提供し、芸術のすそ野を広げる一助をしたいと思っています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫 学校の担当者とはワークショップ、本公演開催前に密に連絡を取ります。 事前にワークショップ等の資料を送りますが予習の必要はありません。 また、公演当日は参加する子どもたちと実際のステージで本番と同じ照明や音響を加えた舞台稽古を行い、安全を確認した上で開演を迎えます。 開演時間、ワークショップの時間、参加人数などは出来る限り学校側の希望に添う努力をします。</p>
--	---

リンク先	No.2	【公演団体名	企業組合 劇団仲間	】
『わすれものの森』 現役教員の感想	<p>「つながりの大切さを子どもたちに」 客席に着くと、舞台上に森の中を表現した、カラフルな色彩の舞台美術に目を惹かれ、早速、不思議な世界にいざなわれる。</p> <p>アップテンポの軽快な音楽で「わすれものの森」に住む不思議な住人たちのダンスで開演した。歌やダンスには、リズムカルなスピード感にスローモーションもあり、この作品がミュージカル仕立てであることが分かり「やっぱり、生で観る舞台はいいなあ」という私の心の声が聴こえてくる。</p> <p>「下校の時刻になりました。」という学校の日常的なチャイムが、子どもたちの心をつかんだのではないだろうか。現実をあらわすチャイムの最後の音程が微妙にずれていくことで、不思議な世界に吸い込まれていく演出は見事だ。</p> <p>現実を生きるツトムが、縦笛をわすれものしたことで、わすれもの集めを仕事にしている森の住人のサントスとニブラに出会う。サントスとニブラのコミカルな掛け合いに、会場の親子は笑いに包まれた。サントスが舞台上で帽子を忘れたとき、客席の女の子の「わすれている！」というつぶやきが響いた。森の世界の不気味な演出もあり、テンポ良く進んでいく展開に観客席から「怖いよ…」「ウケる！」といった子どもたちの声が聞こえ、心の動きが伝わり、劇場全体に響いてくる感動を実感した。</p> <p>鑑賞をしていて、この作品から「人とわすれものつながり」と共に「人と人とのつながり」が、メッセージとして伝わってくる。特に子どもたちは想像力が豊かで、物にもすぐに感情移入できるだろうし、ましてや「わすれもの」という身近な存在となると、必然と劇に引き込まれていくのであろう。始めから終わりまで、固唾を呑みながら舞台を見守る子どもたちの様子が印象的であった。</p> <p>エンディングでは、ツトムと大切なわすれものである縦笛を擬人化した少女が出会って、サントスとニブラ、そして鳥と大臣と長老たち全てが、あたたかい歌と共につながってひとつとなり、感動的に幕を閉じた。</p> <p>「わすれものの森」では、あきらめずに相手を受け入れ、許すことで、お互いにつながり合うことができた。子どもたちには、あきらめないこと、そして人と人とのつながりを大切にして生きることを現実の中で生かしていけるようになることを願ってやまない。</p>			